

## ■指定するもの

### 1. 大般若経 600帖

海草郡紀美野町に所在する小川八幡神社所蔵の大般若経は、古くは奈良時代、新しいものでも室町時代までの間に制作されたもので、全て写本からなり、全600帖が完存する。小川八幡神社では、これらを正平18年（1363）頃から約60年後の応永29年（1422）頃までに収集したとみられ、以降、今日に至るまで1帖も欠けることなく守り継がれ、毎年、地域の人々によって転読が行われてきた。

本経の構成は極めて複雑であるが、近年行われた詳細調査の結果、各帖の制作年代が奈良時代105帖、平安時代375帖、鎌倉時代から室町時代120帖であることが判明した。県内各地に数多く伝わる大般若経の中で、これほど古い時代の経巻を多数含む事例はない。

奈良時代制作の巻には、天平13年（741）「那賀郡御毛寺知識紀直商人」等の奥書を持つものが複数あり、これは紀伊国で発願された「知識経」すなわち国家の事業としてではない民間による写経であることを意味している。奈良時代において民間写経が地方に普及していたことを示す貴重な資料であり、同種の資料として全国最大規模の分量を有する。

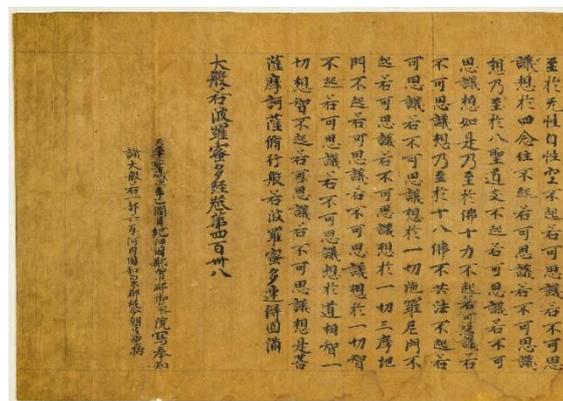
平安時代以降に制作された巻には、高野山や根来寺、廣八幡宮といった近隣の寺社だけでなく、現在の長野県や埼玉県といった遠方の国々で制作・修理された経巻も含まれている。大般若経の書写や集積が、広域にわたる人の移動や信仰を通じた交流のもとに行われたことがうかがわれる。

小川において、莫大な時間と労力を費やして大般若経の収集が行われたのは、中世に境相論（領土争い）の舞台となった小川荘の人々が、災いを祓う力を持つと信じられた大般若経を全て揃えることによって、村の安寧を強く願ったためと推定される。

以上、小川八幡神社所蔵大般若経は、全600帖を全て揃える、県内最古の大般若経として極めて貴重である。奈良・平安時代の写経が8割を占め、中でも奈良時代の民間での発願にもとづく写経を多数含む点で、全国的に見ても稀少な存在である。加えて、中世以来、紀伊国の一地方で散逸することなく現代まで継承されるなど、地域の人々の結束と信仰の営みを示す資料として高い価値を有している。



全体集合



巻438（奈良時代書写巻）

## 2. 紀伊徳川家墓所 1,253 m<sup>2</sup>

紀伊徳川家墓所は、和歌山市吹上に所在する日蓮宗報恩寺の境内に立地する。報恩寺は、寛文6年（1666）に紀伊徳川家初代藩主・徳川頼宣の正室・瑤林院の菩提を弔うため、二代藩主・光貞により紀伊徳川家の菩提寺と定められた。墓所は境内東部にある丘陵上に立地する。

墓所北部は石積により一段高い区画を設け、この区画内に3基の藩主夫人の墓石である宝篋印塔が東西に並べて建立される。西から、初代藩主・頼宣の正室・瑤林院、二代藩主・光貞の正室・天真院、五代藩主・吉宗の正室・寛徳院の墓石である。瑤林院の墓石には寛文六年（1666）の銘がみられ、墓石及び下部の敷石は大部分が砂岩製である。天真院と寛徳院の墓石は花崗岩製で、それぞれ宝永四年（1707）、宝永七年（1710）の銘がみられる。墓所南東部には、南北に並んで4基の墓石が建立される。いずれも宝塔で、寛文年間（1661-1673）から享保年間（1716-1736）にかけての銘がみられ、北から順に、二代から四代の藩主の生母である側室の理眞院、瑞應院、眞如院、二代藩主・光貞の息女である台嶺院のものである。また、墓所南西部には南北に並んで上部が丸みをもったカマボコ形の墓石4基と宝塔1基が建立される。それぞれ藩主の側室、子息や息女の墓石である。

当墓所については、明治8年（1875）に大規模に改葬が行われたことが『南紀徳川史』に記されている。現在の墓石の配置は、『南紀徳川史』掲載の明治8年の改葬後の絵図の配置と概ね一致していることが確認でき、明治8年の改葬に伴い墓所の区画が大規模に改修されるとともに、各地の菩提寺に建立されていた紀伊徳川家の墓石が集約されたことが分かる。ただし、墓所内外にみられる改葬に伴う痕跡や絵図との比較から、改葬にあたっては、瑤林院の墓石やその周囲の石積の改修を行わず、周辺を整備することにより現在の墓所の配置に改修したと考えられる。また、藩主夫人の墓石は東京都大田区の池上本門寺にも所在するが、これは近世大名墓と同様に本葬墓・分霊墓の制度に基づくものである。

以上のとおり、紀伊徳川家墓所は、御三家である紀伊徳川家の藩主に関係する人物の墓所であり、墓石が良好に残存しているだけでなく、江戸時代から明治初頭にかけての親藩における墓所の変遷が確認できるという特質を有しており、近世大名墓の研究において資料的価値が高いものである。



墓所全景（南西から）



墓所北部 宝篋印塔（南西から）

## ■ 指定解除するもの

### 1. すみよしじんじゃ住吉神社のおがたまの木 き 1本

オガタマノキは関東以西、沖縄県までの沿海地に生育する常緑高木で、神社によく植えられる。住吉神社に生育する個体は自生と伝えられているもので、社殿背後の社叢に生える。幹回り 3.8m、樹高 24m に達する県内最大の巨樹である。樹形は極めて端整で、社叢の中でもよく目立っていた。

令和 6 年 10 月 3 日から 4 日の降雨で主幹の根元より倒壊して滅失したため、県指定を解除する。



住吉神社のおがたまの木 倒壊状況